



実際に見学した参加者は、

東北電力(株)仙台火力発電所・仙台太陽光発電所の見学です。2010年に燃料を石炭から天然ガスへ移行した仙台火力発電所は、ガススタービンと蒸気タービン・発電機の大きさ



実際に見学した参加者は、

巨大なガススタービン・蒸気タービン・発電機の大きさに驚いていました。



実際に見学した参加者は、

太陽光発電については、実際の太陽電池モジュールを前に発電の仕組みや再生可能エネルギーのメリット・デメリットの説明があり、太陽光を優先しながら火力発電の発電量を調整することで、電気を安定供給していることを学びました。

参加された方々の感想

- 女川原子力発電所であれほどどの安全対策が施されているとは思わなかった。2号機再稼働に向けて取り組んださまざまな安全対策を知ることができ、大変貴重な経験となった。
- 女川原子力発電所の見学では防潮堤の高さに驚いた。「安全対策に終わりはない」という言葉が深く心に刻まれた。
- 仙台火力発電所、仙台太陽光発電所見学では、太陽光発電を優先しながら火力発電の発電量を調整して電気を安定供給していることを初めて知った。CO₂排出量だけが課題ではなく、エネルギーの安定供給も大事であることを学び、エネルギーについて深く考えさせられた。
- 原子力、火力、太陽光それぞれの発電所見学会を通じて、どの発電方法にもメリット・デメリットがあることをあらためて学ぶことができた。さまざまなエネルギーをバランスよく組み合わせるエネルギーミックスが大切なのだと感じた。
- 女性対象のセミナーで気軽に参加できた。テーブルトークでは、他部門の方々が今回のセミナーでどう感じたかを知ることができ、今後の自分の業務の参考になった。



2回目(3月13日)

2025/ 働く女性の「エネルギーセミナー」実施レポート

当会では、2025年3月6日および13日、会員企業の女性社員の皆さまを対象に「エネルギーセミナー」を実施しました。本セミナーは、タイプの異なる発電施設の見学とテーブルトークを組み合わせた2回シリーズで、エネルギーミックスの重要性やエネルギー問題への理解をさらに深めていただくことを目的に毎年開催しています。

今回は14名の皆さまに参加いただきました。

女川駅前の復興状況の視察と東北電力(株)女川原子力発電所の見学です。はじめにこの町で生まれ育った語り部ガイドの女性から、東日本大震災当時の様子や復興に向けた街づくりなどについてお話を伺いました。その後、14年ぶりに再稼働を果たした女川原子力発電所の見学です。PRセンターでは、模型を見ながら原子力発電の仕組みを学習しました。専用バスで発電所構内へ移動した後は、海拔29m、全長800mの防潮堤や緊急時の電源確保対策等を見学しました。最後はPRセンターで、360度カメラで撮影した発電所2号機の内部をVR(バーチャルリアリティ)仮想現実映像で見学。安全対策に対する最新の知識を取り入れながら安全



1回目(3月6日)

安定運転を行っているという説明に、真剣な表情で理解を深める参加者の姿が印象的でした。

